

## 編集後記

本号も関係各位のご協力により、学術情報処理研究の発行の運びとなりました。皆様には改めて感謝申し上げます。

さて、今回の査読論文では、情報基盤運用に関するものから、種々の情報の取り扱いに関するものまで幅広い題材なのが特徴かと存じます。情報系センターにおいては、なんと言ってもネットワークの運用が日常でもっとも重要な業務であり、認証の問題や様々なデータの保管の問題に日夜心血を注がれていることが、論文を通してにじみ出ている様に思います。情報系センターでは、ここ数年の間に情報基盤を更新する時期を迎え、すでに更新した大学や更新を間近に控えている大学の中で蓄えられた知識・技術が本冊子に公開されることは、非常に有意義であると思われまふ。

その中で、これから、よりよい解決策を模索しなければならない課題に、認証の仕組み、セキュリティ管理関係、リポジトリおよびe-Learning支援が挙げられまふ。本号でもそれらに関する多くの知見が発表されており、関心の高さが見て取れまふ。これらは、これから情報基盤の更新を計画しなければならない情報系センターにとって重要な情報であるとともに、さらなる進化を模索して次代を先取る設計のヒントとなりまふ。

特に、認証の仕組みは、学生諸君へのサービス向上もさることながら、センター業務の合理化には避けて通れない課題であり、これからも挑戦的な論文が数多く発表されることを期待しまふ。図書館などとの連携で、リポジトリ関連のデータ管理手法も重要な技術であり、これからは大学の情報発信機能の飛躍が求められていることへの戦略的試みと位置づけられるでしょう。最近では情報系センターの改組がどんどん行われています。大学ではCIOの設置に伴って、全学的な情報化戦略の構築と、それを受けた情報系センターの役割の再定義が急務となっている現れでしょう。本号で議論されている内容は、いずれも大学の情報化戦略の根幹に関わる研究であり、今後ますます研究を進めていかなければならないことは必至であります。

キャンパス情報化を進めて、学生諸君には快適なキャンパスライフを提供し、教員にはより生産性の高い研究・教育環境を提供する事が求められています。本冊子が、そのための貴重な材料となることは疑う余地がありません。学術情報処理研究の存在が、大いなる指針となることが期待されています。今後とも学術情報処理研究がますます盛んになってゆくことを願いつつ筆を置きます。

「学術情報処理研究」  
編集委員会 八巻 直一